

倒産しない為の会計学 公認会計士 小林 正樹

「会計は弱いなあ〜」と言う経営者の方が沢山いらっしゃいます。そんな方々の為にこれだけ押さえておけば大丈夫と言う会計のポイントを述べてみようと思います。

①売上は最大に、経費は最小に。

いろいろありますが、煎じつめればこの一言になるでしょう。とにかく売上は最大になるよう、いつも心がけるのです。「経費は最小に」ですが、この経費の中には仕入れや材料の購入も含まれます。つまり、固定費だけでなく仕入れのような変動費も含むのです（変動費とは売上に比例する経費です）。売上と経費の差が利益ですから、売上最大にして経費最小にすれば必ず利益が最大になるということです。

②「税引後利益+減価償却費」の範囲内で設備投資をする。

最近では借入をして設備投資をしたり、事業を開始するのが常識になってしまっています。昔は“借金は恥”の文化があったので、できるだけ自己資金で設備投資をしたのですが、今はその文化は崩れてしまいました。「税引後利益+減価償却費」の範囲内で設備投資をすれば借入金は不要です。借入金不要ということは利息も発生しないので“経費最小”となります。

③借り物主義で行く

土地・建物を「所有する」のではなく「借りる」ことが経営の安定化に資することになります。その理由は「借り物」ならば直ぐ解約できるからです。売上の激減とかに直面した時に、「借り物」ならば、賃貸借を解約すれば、その日から賃貸料がなくなるのです。

④手形を発行しない

手形を発行すると瞬間的に資金繰りが楽になります。資金繰りが楽になって手許に現金が残ったりすると、そ

れを利益だと勘違いしてしまい、ムダに何かを買ったりしてしまうのです。また、手形で仕入れる場合と現金仕入れの場合では仕入れ単価が違ってきます。つまり高いものを買ってしまうことになります。いずれにしても経費最小になりません。

⑤リースはしない

リースは簡単に契約できますが、その実態は借入金と同じです。途中解約する時は残期間のリース料を全額支払わなければならないからです。つまり②に反することになります。

⑥社長は良い車に乗らない

車は利益を生みません。つまり“売上最大”に貢献しませんし、逆に経費は最大になってしまいます。

⑦人はギリギリまで入れない。

“人がギリギリ”の状態ですと、人が育ちます。忙しいことが常となり、忙しい状態で仕事をしていてもそれを忙しいと感じなくなります。ところが“人が余っている”状態で仕事をしていると少し仕事が増えただけで「もう手いっぱい」と感じる人間になってしまいます。つまり、人が成長しなくなってしまうのです。そして結果として人が多くなり、経費最小にならなくなってしまうのです。

…以上、そんなところを押さえておけば少なくとも倒産しないのではないかと思います。

(株)ケイシーシー経営研究所
小林公認会計事務所

〒437-0013 袋井市新屋2-3-330

TEL:0538-42-9051

FAX:0538-42-9968

執筆して頂いた 小林 正樹さん ▶

